

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市東四郎丸児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人FOR YOUにこにこの家
3 指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 9,305 人 (前年度比 69.7 %) <p>令和元年度 13,353人 平成30年度 15,376人 平成29年度 16,891人</p> 《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者に支払った費用 30,206 千円 (25,467千円) その他市が負担した費用 0千円 (0千円) 《収入》 <ul style="list-style-type: none"> 使用料収入 0千円 (0千円) その他収入 0千円 (0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、にこにこ児童館応援隊、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援及び家庭支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。今年度においては地域との交流事業が多く休止されたが、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人FOR YOUにこにこの家）による自己評価》
<p>「子どもの未来を応援する児童館」「手をつなぐ児童館」として、子どもたちが健やかに育っていくことを願い、地域・学校・福祉施設と共に事業に取り組んできた。令和2年度は児童の安全を第一に考え、仙台市の方針に従ってコロナウイルス感染症予防対策を講じながら、実施可能な活動に取り組んだ。学校が6月まで休校であったことから、特に児童の心身のケアに配慮しながら、運動や創作活動などを通して、体力の向上や創造力の育成を図ってきた。さらに児童クラブの子どもの可能性を引き出す取り組みとして、クリスマス会では保護者の前で音楽の発表を行った。児童健全育成及び地域交流推進事業の一つとして、9月には東四郎丸小学校区の避難場所を確認するまち探検を行い、放課後子ども教室の児童や地域の方々との交流を図りながら、防災の意識を高めることができた。学コミかっこ和太鼓隊については、2年度は活動はできなかったが、これまで自己肯定感や地域に貢献する意識を育てるうえで大きな成果を上げ、地域の復興活動の一端を担ってきたことから、今後も活動を続けていくことを袋原中・東四郎丸小・四郎丸小・袋原小の4校と話し合った。また、子育て家庭支援事業としては、乳幼児親子にとって孤立せず安心して子育てのできる居場所の一つとなるように、9月からこちゃんルーム月2回の活動を再開した。自由に外に出られない状況が続いていたので、遊びや創作活動、情報交換を通して子育ての不安感や負担感を軽減することができ、家族間の交流も図ることができた。現在コロナ禍でこれまでのような活動はできないが、感染予防対策に努め活動を工夫することで、少しずつ日常を取り戻せるように事業を実践していきたい。今後も児童館運営の4柱を念頭に、学校教育、家庭教育、社会教育が重なり合って、子どもたちの笑顔を未来へ繋げていけるように児童館運営に努めていきます。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業では、絵本の読み聞かせなどで情緒を育て、「チャレンジひろば」や「スポーツひろば」などの児童クラブ行事では工作や運動遊びなどの活動を通して子ども達の遊びへの意欲を引き出した。その中で、竹馬や縄跳びなどへの取り組みについては、「がんばるんば」活動に繋げ、子ども達自身で立てた目標に向けて練習する機会を持った。こうした様々な活動の取り組みに対して、子ども達の意見や感想を表現する場を設けて、自主性を育てる支援をしている。</p> <p>地域交流においては、地域ぐるみでの「ほっとねっと東中田」や、専門家を交えた「にこにこ児童館応援隊」で、日頃より子ども達と家庭を支援しており、制限の多い今年度においても変わらず連携を深めている。「放課後子ども教室」とは連携して月に一度、ドッチビーでの交流や製作遊びなどでの交流の機会を持っており、充実した活動を行っている。「ハリーレストラン」では、子ども食堂と児童館事業を抱き合わせるなどして、コロナ禍における児童館での新しい食育活動として地域の子供達への支援を兼ねて取り組んでいる。また、防災活動にも力を入れており、まち探検では地域避難所の確認を兼ね、地域の方から防災についての話を聞くなどして交流の機会を持った。他にも、日常的な小学校との情報交換など関係機関との連携を図り、子どもの未来を見据えながらより良い支援に努めており評価できる。</p> <p>子育て家庭支援事業では「にこちゃんルーム」の定期開催において、しゃぼんだま遊びなど児童館ならではの遊びや、季節の行事などで豊かな遊びの場を提供し、地域の子供達を支援するための環境作りに努めている。</p>	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課